

R3-14

効果的な安全教育のための1日防災学校の実施

- 管内 檜山管内
- 分類 避難訓練 危険対応能力 防災訓練 その他（1日防災学校）
- 教育課程 教科（科） 道徳 総合的な学習の時間 特別活動
- 校種 小学校（低） 小学校（中） 小学校（高） 中学校 高等学校
- 取組のポイント

- 1 関係機関と連携を図り、実行委員会を立ち上げ、児童の防災意識を高める工夫
- 2 災害に対し、主体的に行動する力を育成するための1日防災学校の実施

■取組の実際

ねらい

- 専門家の説明や体験学習を通して、児童が防災に関する知識を習得し、防災意識を高める。

■内容

本校の1日防災学校は、実行委員会（学校、町教育委員会、役場、消防署の担当職員で構成）を立ち上げて実施しており、実行委員のアイデアを取り入れ、それぞれの立場の専門性を発揮し、安全教育の充実を図っている。

1 自分自身の防災意識を高める活動の実施（低学年）

- ・北海道南西沖地震のパネルを見ながら説明を聞くことで、災害の恐ろしさやそこから得られた教訓を学び、防災意識を高めた。
- ・「北海D。防災かるた」を通して、楽しみながらも、いざというときの必要な知識を確認した。
- ・災害時に必要となるものについての話し合いを行い、新聞紙でのスリッパづくり体験を実施した。



【新聞紙でのスリッパづくり】

2 自分の住む町の防災に関する取組を学ぶ活動（高学年）

- ・町の防災担当者から、防災無線の仕組みや町で作成している防災ハンドブックの内容についての説明を聞くことを通して、町の防災の取組に関する理解を深めた。
- ・消防署員から応急処置法の説明と災害時における身近なものを活用した応急処置を体験し、理解をより深めた。



【身近なものを利用した応急処置体験】

3 地域の災害に対する対応を学ぶ活動（全学年）

- ・消防署員と北海道開発局職員が災害時に活動する自動車を展示し、実際の活動時の様子について説明を受けた。

■成果と課題

- 専門家の講話を聞いたり、体験学習を実施したりすることを通して、地域で想定される災害についてより深く学ぶことができ、防災意識を高めることができた。
- 児童の興味が高まる内容を関係機関の方々と教員と一緒に考えることで、児童は主体的に学習に取り組み、命を守る大切さについて理解を深めることができた。
- 児童自身がより主体的な行動につなげられるよう、各教科や避難訓練等の行事との関連を考えて防災教育の取組を進める必要がある。